

廣澤安任 ひろさわ やすひら 舊會津藩士、漢詩人。文政十二年（二月）一日陸奥國會津右松城下生れ、明治二十四年（二月五日歿）（八三〇―九一）。字本重、通稱富次郎。號六十九種山堂主人、得岳、淡煙、淡煙得岳、牛馬王、牧老人。藩費で新館の學び、安政二年昌平校學府所に入る。文久二年京都宇護職。戊辰戰では藩士の赤心を總督府に訴へ下獄。のち赦されて、斗南藩少參事となり、舊藩士の救済と京野の開拓に従事。牧場を開き、明治九年の東北巡幸には牛馬を大覽公供した。

著書に『廣澤牧老人遺稿・一』（明治二十四年五月十一日柴田朗編刊）、『開牧五年紀事』（昭和二十五年十一月十四日青森・青森縣農地委員會協議會。のち『明治前期の於ける畜産誌』二十七年二月）二十

九日青森・青森縣立圖書館青森縣立圖書館、青森縣農地委員會「青森縣

養書」所収）等。